

四間道・那古野 まちづくり協議会

「四間道・那古野界限」は、超高層ビルの再開発が相次ぎ、リニア中央新幹線の開通が予定されるなど活気づく名古屋駅のすぐ近くに位置し、江戸から昭和の歴史文化が息づくまちです。この界限で、地元の商店街や学区の地縁組織、まちづくり団体等で構成し、研究者や市も参画するまちづくり協議会が2012年10月に発足しました。

開発が進む名古屋駅のすぐ近くで
歴史・文化、コミュニティの特色を活かしたまちづくりを進めています



商店街
円頓寺商店街、円頓寺本町商店街、西円頓寺商店街の3つがある。名古屋で最も古い商店街といわれて、「南の大須に北の円頓寺」と言われる程盛り場として賑わった。



四間道・那古野界限
地域コミュニティを大切にしながら暮らしが営まれるまち



円頓寺商店街七夕まつり
2013年に58回目を数えた夏の恒例行事



菓子問屋街
名古屋で最も古い問屋街といわれて、「南の大須に北の円頓寺」と言われる程盛り場として賑わった。



名古屋駅
戦前の名古屋の街の面影を残す町並み



四間道(しけみち)
江戸時代の大火の後、幅4間に広げられた。戦前の名古屋の街の面影を残す町並み



川伊藤家
江戸時代に入って移住した清洲越商人の家で、堀川の水運を利用して家業を営んだ堀川・美濃路筋商家の典型例とされている。



屋根神様
厄病除けの天王様、火災除けの秋葉様、土地の大社の熱田神様などを、庇屋根や軒下など地面より高い位置にまつことから「屋根神様」と呼ばれて、地域の人々に親しまれている。

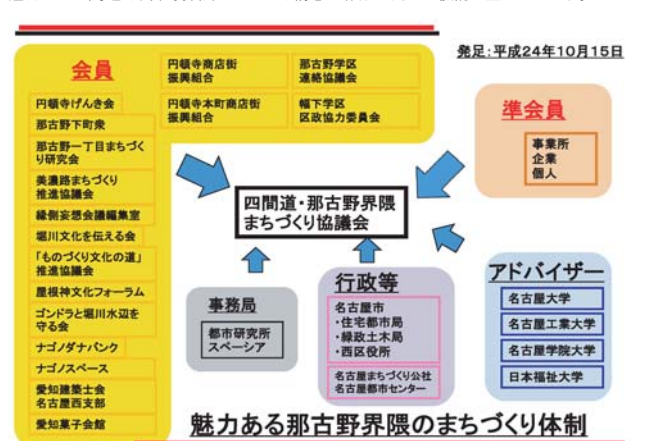


五条橋
江戸時代に入ってから始まった「清洲越し」の際にかつての清洲城下の五条川にかけられていた橋を移築したもの。



堀川
慶長15年(1610年)名古屋城の築城と時を同じって、福島正則により開削されたと伝えられている。

学区、商店街組合、この界限のイベントを手掛ける団体、空家・空店舗活用に取り組む団体、堀川のまちづくりに関わる団体、歴史の掘り起こしに関わる団体など、多彩な顔触れでまちづくり協議会を組織。
魅力ある四間道・那古野界限のまちづくり構想の作成に向けて検討を重ねています。



市の広報やマスコミで紹介されました



広報なごや 2013年6月



中日新聞 2012年11月17日 記事